

Strix 12 : 101-106 (1993)

鹿児島県金峰山におけるアカハラダカの秋の渡りについて

不破 茂^{1, 2}・鶴添泰蔵¹・小園卓馬^{1, 2}

アカハラダカ *Accipiter soloensis* は朝鮮半島で繁殖する小型の猛禽類である(高野 1977)。本種はサシバ *Butastur indicus* より約一月早く9月に大群で渡りを行ない、そのルートは対馬、九州西岸、奄美大島、沖縄本島、宮古島を経て、台湾からフィリピンで越冬することが明らかになっている(池長 1991, 鴨川 1992)。本報では九州本土でのほぼ最終地点に相当する鹿児島県薩摩半島の金峰山(636m)で、1992年9月にほぼ1か月間アカハラダカの渡りを継続調査したのでその結果を報告する。

調査地および調査方法

金峰山は薩摩半島の中西部に位置しており、薩摩半島東側を北北西から南南東へ連なる脊稜山地(400~500m)から約10km西へ離れている(Fig. 1)。標高約200mから独立山塊を形成して、山頂部はドーム状で山麓はいずれの方向も峻立している。西側は約5kmで吹上砂丘の海岸線に達し、海岸平野が南北に続き南は万之瀬川河口へ至る。南側は比較

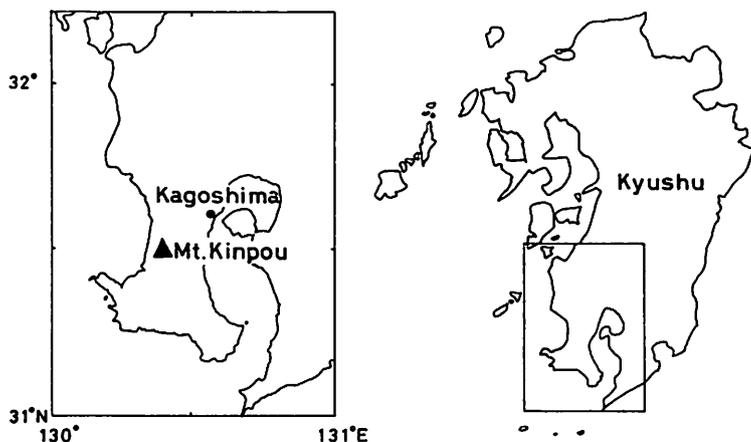


図1. 薩摩半島の地形, ▲は観察を行なった金峰山.

Fig. 1. Map of Satsuma area in Kagoshima Prefecture. ▲ indicates Mt. Kinpou (636m).

1993年12月20日受理

1. たかあがり, 〒890-01 鹿児島県鹿児島市星ヶ峯3-13-13
2. 日本野鳥の会鹿児島県支部, 〒890 鹿児島県鹿児島市常磐町289-16

的開けており、標高約100mのシラス台地が続き、南約18kmで下山岳（416m）に、南東約35kmで開聞岳（989m）に至る。

調査は1992年8月30日から開始し、9月5日からは連続して9月27日まで行なった。この調査期間は、過去3年間の調査結果と今年の調査から、渡りの期間と思われる時期である。

観察は日の出から開始し、4～6時間継続した。そして飛行または、帆翔を確認した時刻と数および、その方位と状況を記録した。観察には目視と8倍の双眼鏡とを併用し、20倍望遠鏡を種の同定のために使用した。観察の精度を確認するためにアカハラダカの実物大模型を、山頂からの距離を違えて設置し、目視で確認できるかを検討した。その結果、目視で約1500mまでは確認できた。これより、アカハラダカを視認できる限界を約1500mとし、観察の結果はこの範囲内に限定した。池長（1991）によれば、アカハラダカの渡りには、早朝から午前中の停泊地からの飛び立ち群、午後の上空通過群、夕方の観察地への停泊群が観察される。本報告では主として飛び立ち群について検討した。

結果および考察

1. 飛び立ち数の経時変化

アカハラダカの渡りは9月5日に最初に記録され、9月下旬まで約1か月弱続いた。この初認日は金峰山での過去の観察記録ともほぼ一致している（不破ほか 未発表）。このあと一週間はごく小数しか観察されず、9月12日に最大数約3500羽を確認し、その後数日間は100羽以上のまとまった羽数を確認したが、その後は飛行を確認できなかった。しかし、9月26日に85羽、27日に3羽を確認した（Table 1）。渡りのピークは9月12日から17日と非常に短い期間で、このあいだに記録されたアカハラダカは全観察数の98%（ $n=4367$ ）だった。この結果は（池長 1991, 鴨川 1992）とも一致する。

日の出から最初の一羽が飛び立つまでの時間をFig. 2に示した。9月5日の初認日では約3.5時間だったものが、9月12日から17日のピーク時には約2.5時間、9月下旬の最終期には約1時間まで短縮していた。飛び立ちまでの所要時間が日を追って減少する現象は金峰山の昨年の観察（不破ほか 未発表）や、東市来町大峯ヶ原でも確認されているが（日本野鳥の会鹿児島県支部東市来友の会 1991）、この理由は明らかにできなかった。

2. 飛び立ちと気象条件

アカハラダカの渡りでは、当日の気象条件に大きく影響されていること示唆され、気象条件との関係を検討した。9月は夏に日本上空を覆っていた高温多湿の太平洋気団は徐々に勢力を弱めて後退し、低温低湿のシベリア気団から分離した移動性高気圧が、約一週間の周期で通過するようになる（根本ほか 1979）。鹿児島地方気象台観測の、1992年9月の午前6時の気象をTable 2に掲げている。気温約25°C以上および、湿度約75%以上を太平洋気団とすると（鹿児島地方気象台の見解）、9月5日～10日と9月19日～25日が夏の気団に覆われていたことがわかる。Table 1に示したように、アカハラダカの飛行はこの期間にはほとんど観察されず、移動性高気圧が通過した9月12日～17日と9月26日に集中していた。

アカハラダカのような、滑空飛行で長距離の渡りを行なうものについては、飛行経路の気象の影響を強くうけると考えられる。そのため観察地と飛行経路を含む、より広い範囲

表 1. 金峰山でのタカの渡りの観察結果 (1992年).

Table 1. Observations of migrating *Accipiter soloensis* in fall at Mt. Kinpou (1992).

Date	Weather	Time	Number of individuals			Other
			<i>A. soloensis</i>	<i>Butastur indicus</i>	<i>Pernis apivorus</i>	
8.30	Cloudy	07:30~08:30	0	0	0	0
9. 5	Clear	06:00~10:00	5	9	1	0
9. 6	Fine	07:00~10:30	1	12	0	0
9. 7	Clear	07:00~10:00	0	3	1	0
9. 8	Clear	07:00~10:00	3	2	0	0
9. 9	Fine	07:00~10:30	1	36	1	0
9.10	Rain	07:00~09:30	0	0	0	0
9.11	Clear	07:40~10:00	0	5	1	0
9.12	Clear	06:00~12:00	3503	5	0	1
9.13	Fine	06:00~10:00	9	1	2	0
9.14	Rain	07:00~09:30	0	0	0	0
9.15	Clear	07:00~10:30	480	0	0	0
9.16	Fine	07:00~10:30	240	2	0	0
9.17	Fine	07:00~10:30	134	0	0	1
9.18	Clear	07:00~10:00	3	1	0	2
9.19	Cloudy	07:20~10:10	1	0	0	0
9.20	Cloudy	07:25~08:35	0	0	0	0
9.21	Cloudy	07:00~10:00	0	0	0	0
9.22	Cloudy	07:00~10:00	0	0	0	0
9.23	Cloudy	07:00~10:00	3	5	3	0
9.24	Cloudy	07:00~10:00	0	0	0	0
9.25	Cloudy	07:00~10:00	0	0	0	0
9.26	Fine	06:50~10:15	85	1	0	0
9.27	Fine	07:00~10:00	3	0	0	0

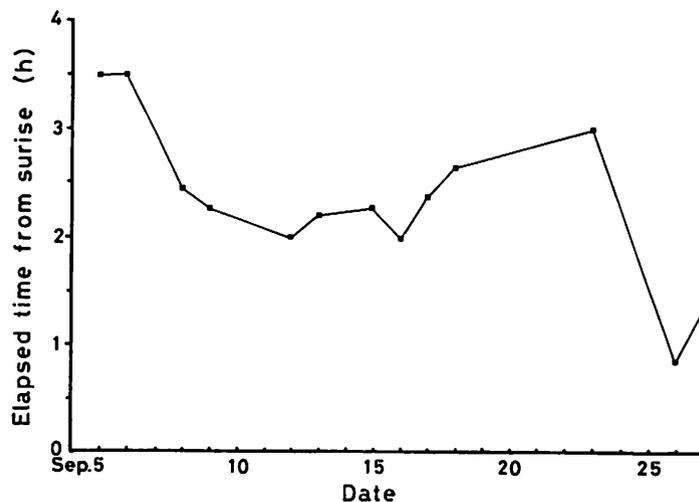


図 2. 日の出からアカハラタカの初認までの時間の変化.

Fig. 2. Relationship between the elapsed time from sunrise and the first observation of Chinese Sparrow Hawks *Accipiter soloensis* each day.

表 2. 午前 6 時の気象 (鹿児島市).

Table 2. Weather conditions at six o'clock each observation day in Kagoshima City.

Date	Atmospheric pressure (mb)	Temperature (°C)	Humidity (%)	Wind direction	Wind speed (m/s)	Weather	Visibility (km)
9. 5	1006.8	25.8	88	NW	0.7	Fine	25
6	1007.9	24.4	89	NW	1.2	Clear	16
7	1010.3	24.6	81	N	3.1	Fine	8
8	1010.7	24.8	80	N	1.0	Cloudy	12
9	1009.8	22.5	85	NW	1.5	Fine	20
10	1005.5	24.1	84	NNW	1.0	Cloudy	10
11	1003.6	21.8	83	NW	1.9	Fine	20
12	1007.3	22.6	70	N	2.1	Fine	20
13	1007.7	19.4	76	NW	0.6	Fine	30
14	1006.4	22.7	94	E	1.5	Rain	5
15	1007.6	21.9	86	NNW	2.1	Fine	20
16	1008.5	22.1	87	NW	1.4	Clear	7
17	1009.6	20.4	82	WNW	2.0	Clear	10
18	1012.6	21.4	82	WNW	1.4	Fine	10
19	1016.0	26.7	72	NNE	2.6	Clear	10
20	1016.6	25.6	64	NNE	5.3	Rain	9
21	1017.0	24.3	42	NNE	5.5	Cloudy	10
22	1015.8	22.5	66	NE	8.1	Cloudy	5
23	1014.8	24.7	77	N	4.3	Cloudy	20
24	1012.1	25.6	84	ESE	2.1	Cloudy	15
25	1003.9	24.6	86	WSW	3.9	Cloudy	10
26	1009.0	21.3	76	NW	3.2	Clear	35
27	1016.1	18.1	55	NNW	4.0	Clear	40

(Data: Kagoshima Meteorological Observatory)

での大気の動きを考える必要がある。この時期の気団が約30~40km/hの速度で、西から東へ移動することを考慮して(根本ほか 1979), 観察日の前日午後 6 時の天気図を Fig. 3 に示している。アカハラダカは移動性高気圧が、東シナ海に張り出してきた場合に観察され、低気圧の接近や南の海上に停滞前線がある場合には観察されていない。この気圧配置になると九州から沖縄にかけて、北寄りの風が吹いている。アカハラダカは移動性高気圧から吹き出す、北東~北西気流を利用して南下飛行すると考えられる。

3. 今後の検討課題

これまで金峰山での観察結果にもとづいて検討したが、さらに検討すべき問題がある。まず、薩摩半島での飛行ルートの範囲である。アカハラダカの渡りルートは、九州西岸をとって薩摩半島から奄美群島へつながるとされている(池長 1991, 鴨川 1992)。しかし、渡りのルートにはかなり幅がある可能性がある。なぜならば9月中旬に、金峰山の南西約15kmの長屋山(530m)ではまったく確認できないが、著者らは西南西約25kmの野間半島で本種と思われるタカ類の飛翔を観察しているからである。また、金峰山のほぼ真北約25kmの東市来町大峯ヶ原(340m)でも、アカハラダカの渡りが観察されている(日本野鳥の会鹿児島支部東市来友の会 1991)。開聞岳(922m)が薩摩半島の南端で峻立

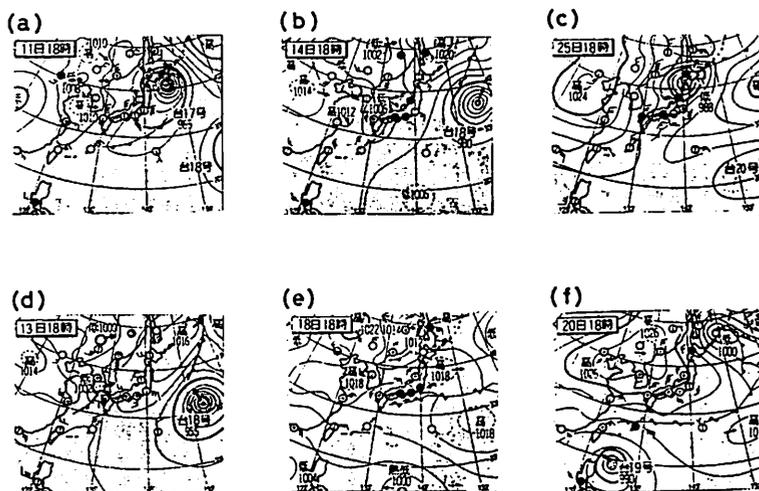


図3. アカハラダカの観察期間(1992年9月)の天気図, (a), (b), (c); アカハラダカが観察された場合, (d), (e), (f); アカハラダカが観察されなかった場合.

Fig. 3. Examples of weather charts from September 1992. (a), (b), (c): the Chinese Sparrow Hawks *Accipiter soloensis* were observed. (d), (e), (f): the Chinese Sparrow Hawks *Accipiter soloensis* were not observed.

していることを考慮すると、アカハラダカの渡りでは主要な場所だろう。ここから南は海上ルートとなるので、薩摩半島ではそれに備えた行動をとることも予想される。来年は薩摩半島の広い範囲での同時調査を計画している。

謝 辞

本稿をまとめるに際して観察資料を提供され、有益なご教示をいただいた池田敏郎氏、尾上哲也氏、下池和善氏に感謝する。

要 約

1. 1992年の鹿児島県金峰山におけるアカハラダカの秋の渡りを検討した。
2. 観察は8月末から9月末まで毎日、山頂で日の出から約6時間行なった。
3. アカハラダカは日の出から約2時間後から山腹にそって帆翔し、南に飛行した。
4. アカハラダカの初認は9月5日で、終認は9月27日だった。渡りの最盛期は9月12日から17日であり、このあいだに約98%が観察された。
5. アカハラダカの秋の渡りと気圧配置には、密接な関係があることが示された。
6. アカハラダカは西日本を覆っている、移動性高気圧からの吹き出し気流を利用して、渡りを行っていると考えられた。

引用文献

- 池長裕史. 1991. 見に行こう! アカハラダカの渡り. *Birder* 5 (10): 30-35.
 鴨川 誠. 1992. 天を舞う鷹の群れ. *アニマ* (241): 88-90.
 根本順吉・新田 尚・曲田光夫・倉嶋 厚・久保本光熙・安藤隆夫・篠原武次・原田 彰. 1979. 気

象, pp. 152 - 168, 共立出版, 東京.

日本野鳥の会鹿児島県支部東市来友の会. 1991. ヤイロチョウ (10) : 1 - 3.

高野伸二. 1977. 野鳥識別ハンドブック, pp. 91 - 101. 日本野鳥の会, 東京.

Observation of autumn migration of the Chinese Sparrow Hawk
Accipiter soloensis at Mt. Kinpou, Kagoshima Prefecture

Shigeru Fuwa^{1,2}, Taizou Tsuruzoe¹, Takuma Kozono^{1,2}

1. The autumn migration of the Chinese Sparrow Hawk *Accipiter soloensis* was observed from the end of August until the end of September 1992; the observation was performed everyday, for 6 hours after sunrise, from the top of Mt. Kinpou, Kagoshima Prefecture.
2. Chinese Sparrow Hawks start gliding south along the mountainside 2 hours after sunrise.
3. The first observation of the Chinese Sparrow Hawk was on 5 September 1992, and the last observation was 27 September 1992. The peak of migration was seen between 12 and 17 September 1992. About 98% (4357/4461) of Sparrow Hawks were observed on those days.
4. There was a correlation between migration of the Chinese Sparrow Hawk and the arrangement of atmospheric pressure.
5. It is concluded that the migrating Chinese Sparrow Hawks use air currents from high atmospheric pressure which lies over Western Japan.
 1. Taka-agari, 3 - 13 - 13 Hoshigamine, Kagoshima-shi, Kagoshima 981 - 01
 2. Kagoshima-branch, Wild Bird Society of Japan, 289 - 16 Tokiwa-cho, Kagoshima-shi, Kagoshima 890